

① 小田代ヶ原 (2016年6月5日 栃木県 小田代ヶ原)



マグリットの『光の帝国』を思い出した。

小田代ヶ原は奥日光の戦場ヶ原の奥に広がる草原だ。訪れる人はあまり多くはないかもしれない。しかし戦場ヶ原を歩く時間プラス一時間でなんとかなるのでぜひ訪れてほしい。

ここもかつてはシカが多くいたが、今はシカ柵で囲まれている。ここからシャットアウトされたシカがすぐそばの日光白根に逃げたのだろうか。シカがここまで追い上げられてくる前の姿を取り戻しているというが、シカの方はどんどん奥山に疎開する羽目になっている。こんなに美しいのに、ままならない世界だ。

草原と森と山と空に、雲が湧く。ああ、夏が来るんだなあとぼんやりと思う。

何回も夏はやってきて、人生の中であと30回ぐらいしか夏は来なくて。その中でどれだけの山に行けるだろう、どれだけの景色に出会えるだろう。

夏の予感だけで胸が苦しくなるのは、たぶん年を取ってきたせいだ。

② 春に鳴く

(2016年6月5日 栃木県 千手ヶ原)



去年の5月末だったか（記憶力が本当に弱い）に男体山に登った際、すれ違った方。  
「この音、セミですよね？」

「はあ、そうですねえ」と応じると、「異常だな…」とつぶやいて去っていった。

ごめんなさい。私もその時知らなかった。今なら知ってる。鳴いていたのはこいつ、ハルゼミ（もちろん、写真は抜け殻）。

昨年5月は暑かったので、それで温暖化のせいだと勘違いされたかもしれない。

ハルゼミは寒冷地に多く出現するセミらしい。

この日歩いた森の中は朝から鳥のさえずりとハルゼミの大合唱だった。

どこからかキツツキのドラミングが響いてくる。

③ 千手ヶ浜 (2016年6月5日 栃木県 中禅寺湖)



一見、東伊豆の浜に見えるが、中禅寺湖畔の千手ヶ浜である。

ここへ来るのは二度目で、一度目は昨年秋に雨の中、中禅寺湖を一周歩いた時だ。「なんでそんなことするの」と問われても、それが修行だからとしか言いようがない。誰一人すれ違わない、景色も変わらない湖岸の荒れた道を突き進んでいく（修行なので文句は言えない）と、唐突にこのような砂浜が現れる。

ここは中禅寺湖の最奥部であるが、低公害バスや船を使って訪れることができる。森の中を歩く歩道も整備されている。また、さほど賑々しくもない。静かなハイキングが楽しめる。

このところ、だいぶ激しく山に登っていたので、今回は比較的なだらかなコースを選んだ。たまには景色を眺めながらゆったりと歩くのもよいと思う。

④ 湯川 (2016年6月5日 栃木県 湯川)



『川』(作詞：平井多美子、作曲：石桁冬樹)という合唱曲がある。引用するといろいろ問題があるので、ぜひ動画検索していただきたい。この、溶岩を削って流れていく湯川を見て、ああ、あの歌にぴったりだと思った。

自然の中で出会う風景について、ここはあの曲が合いそうだとか、あの時に見た絵みたいだなとか、そういうことはよくある。自然は芸術の源泉になる。芸術の多くは自然の美しさを、そのエッセンスを抽出したものだろう。そうすることで、私たちは自然を身近なところに置いておくことができる。

今回は風景を主に扱ってみた。

野生生物の写真が狙ってもなかなか撮れるものではないが、景色ならそれほど難しくはない。珍しさ、美しさ、発見、好奇心、思うままにカメラを向けて欲しい。高い山でなくていい、観光地、近所、校庭、河原、海辺、ビルの隙間でさえも、そこに自然の姿を認めたらデジタルカメラやスマートフォンを向けてほしい。

良いものが一枚二枚撮れたなら、ほんの少し文章を添えて事務局に送っていただきたい。